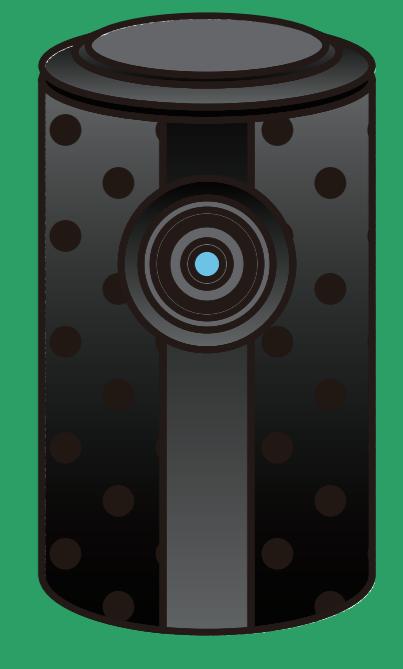


地域における科学技術・文化振興を目的とした メディアアート制作と展覧会の実施



電子光工学科 教授 青木 広宙

2024年1月27日から2月4日に、千歳市民ギャラリーでアルス?テクネ展覧会in千歳を開催しました。「****のためのプロンプト」と題されたこの展覧会は、アートとテクノロジーの関連性を探る場を提供することを目的としています。展示された作品は、本学の青木広宙教授や学生が、札幌在住のアーティスト・インストーラーである山田大揮氏と共同で制作したものです。先端のテクノロジーを利用してアートとテクノロジーの融合がはかられました。本展覧会では、千歳や北海道の持つ社会的な話題・課題をモチーフとした作品が展示されました。そして、それらを通じて観覧に訪れた方にいろいろなことを考えてもらう場の構築が試みられました。



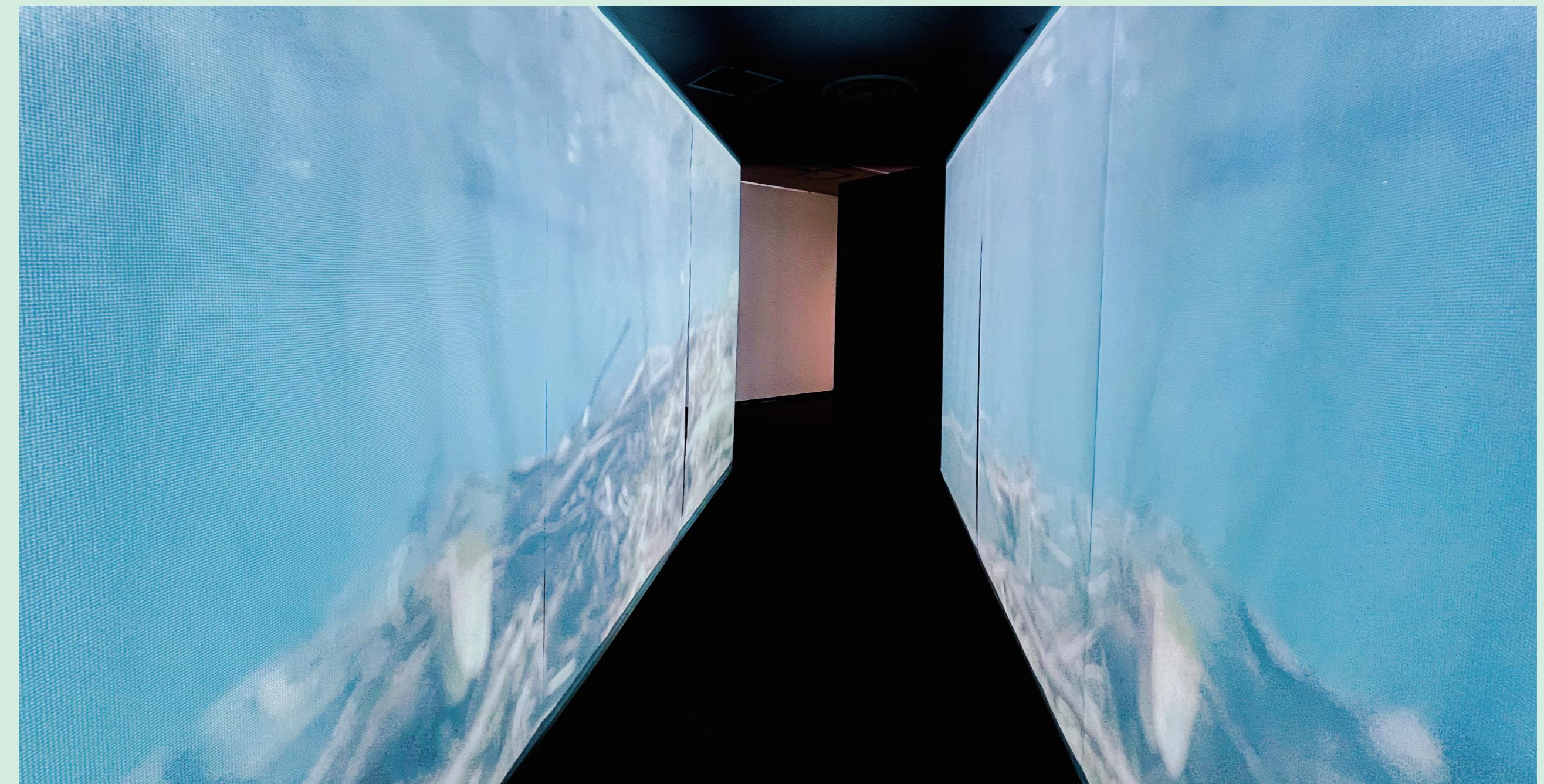
美術と技術の融合による「考える」アート展

本展覧会では、現代アートが社会的な問題にどのように関わるかについて理解・考察してもらうことを目的のひとつとしています。プロジェクタ、画像センサ、3Dプリンタといったテクノロジーを取り入れることで、より多種多様なアート表現が可能となります。現代のアートは単なる美的表現を追求するものではなく、社会的な問題などを対象とすることも少なくありません。この展覧会は、千歳や北海道をモチーフとして、見る人に北海道の社会的な構造に関わる課題について考えてもらうこと目的にしています。

山田氏は、札幌で開催される展覧会の会場設営や技術に関するコンサルタントとしても活躍しています。そのような経験を活かし、本展覧会では、市民ギャラリーにおける展示の潜在的な可能性を引き出すような会場構成を実現しています。山田氏と学生とのコラボレーションによる作品も展示されました。この試みはSTEAM教育の実践として注目され、今後の理工学教育の現場における導入が期待されます。

展覧会には会期8日間で合計132名の方が来場されました。美術学者の山田萌果氏（北海学園大学研究員）をゲストに迎え

千歳川の流れをモチーフにした作品



て、会場と札幌をつなぐハイブリッド形式のトークイベントも行われ、合計159名が参加・視聴されました。さまざまな年代の市民ボランティアの方々に会場案内係として協力していただき、世代を超えた交流の場となりました。

本展覧会は、千歳市の「みんな、ひと・まちづくり基金」の助成を受けています。ここに、厚くお礼申し上げます。

千歳川を遡上した鮭の死骸を モチーフにした作品



アーティストと 学生らによるコラボ作品

